

（午前10時40分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番9、10番 森下君。

〔10番（森下伸吾君）登壇〕

○10番（森下伸吾君）おはようございます。

私も2期目スタートさせていただきまして、17回目の一般質問を議長のお許しをいただきましたので、通告に従い行わせていただきます。

今回の一般質問1項目めといたしまして、コミュニティサイクル（貸自転車）で新しい観光スタイルの提案をについてお聞きいたします。

コミュニティサイクルとは、従来のレンタサイクルとは違い、街中に複数のサイクルポート（貸し出し・返却の拠点）を設置して、どこのサイクルポートでも自転車の貸し出しや返却が自由に行える自転車の共同利用サービスです。

本市の点在している観光地を周遊するためには、自動車では駐車場の問題などがあり、電車では時間の制約があり、徒歩で周遊するには広過ぎます。

那賀振興局では、紀の川エリアサイクリングマップを作成し、粉河駅、岩出駅、貴志駅前ではレンタサイクルの貸し出しを実施しており、3駅間で相互に返却できるワンウェイ返却サービスもあわせて実施しています。

本市も自転車の貸し出しや返却が自由に行えるコミュニティサイクルを導入し、新しい観光スタイルの提案を県内外の方に発信してはいかがでしょうか。

次に、2項目めになります。介護保険を使っていない高齢者の方へ感謝の気持ちを形についてお尋ねいたします。

市民一人ひとりが日常生活において健康に気をつけ、できるだけ介護や医療のお世話にならないような仕組みをつくることは、市の取り組みとして非常に大事なことでないかと考えます。

そこで、その一つの取り組みとして、ただ長寿というだけでなく、健康で介護保険や医療保険を使わない方を、例えば、健康優良者というような名目で表彰するのはいかがでしょうか。

高齢になっても、長年培ってきた知識や経験を生かし、地域における産業や文化、スポーツ活動、社会貢献などの担い手として第一線で活躍されている方々をたたえることは、広く市民の健康意識などの高揚につながると考えますがいかがでしょうか。

次に、3項目めになります。高齢者が利用できる施設などをまとめた便利帳の作成についてお尋ねいたします。

高齢者の方がより安心して生活できることをめざし、行政機関や病院、相談機関はもちろんのこと、地域で活動しているボランティア団体、介護予防につながるサークルなど、多彩な情報を掲載した冊子を作成し、高齢者の生活に役立てていただければいかがでしょうか。

以上のことをお聞きいたしまして、私の第1回目の質問といたします。

○議長（中本正人君）10番 森下君の質問項目1、コミュニティサイクルで新しい観光スタイルの提案をとの質問に対する答弁を求め

ます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○**経済部長（笠原英治君）** 自転車の貸し出しや返却が自由に行えるコミュニティサイクルを導入し、新しい観光スタイルの提案を県内外の方に発信しては、とのご質問にお答えします。

本市における地域の利便性・回遊性・観光環境を考えると自転車を活用した観光スタイルは有効であると考えます。特に、観光地が点在している環境では、自動車を活用しての移動手段が中心となっており、公共交通と自転車の併用による移動は、観光客の利便性を向上し、健康促進を図るためにも必要だと考えます。また、自転車を活用することは環境問題を抑制し、エコシティーの実現につながるものと考え、本市だけでなく周辺観光地との連携により積極的に取り組まねばなりません。

現在、本市では、高野口町名倉にある地場産業振興センターにおいて、自転車の貸し出しを実施しています。また、和歌山県で進めているサイクリングロード利用促進事業では、県が整備するサイクリングロードの沿道において休息や自転車の簡易な整備をサイクルステーションと位置づけ、必要な物品を配置してサイクリストの利便性の向上を図っています。

加えて、このロードの始点が和歌山市の南海フェリー発着所で、終点がJRの隅田駅となることから、市内各駅周辺を活用した事業は地域活性化にもつながるものと考えます。

また、近隣には、紀の川エリア観光サイクリング推進協議会があり、さまざまなイベント活動が行われています。今後は、このような協議会とも積極的にかかわってまいりたいと考えています。また、観光客等の目的やニ

ーズを調査し、本市におけるサイクル活用スタイルを検証し、コミュニティサイクル導入に向けて、周辺市町村との広域連携も視野に入れながら総合的な取り組みを推進し、自転車利用による観光戦略を検討していきたいと思えます。

○**議長（中本正人君）** 10番 森下君、再質問ありますか。

10番 森下君。

○**10番（森下伸吾君）** ご答弁ありがとうございます。

非常に部長から、前向きな検討しますというご答弁をいただきましたので、あえて質問することはないんですけども、コミュニティサイクル、あまり聞きなれない言葉でもあるとは思いますが、レンタサイクルというのはよく聞いたりしますけど、コミュニティサイクルというのは、いわゆる駅駅間で借りたところで返さなくてもいいと、違うところの場所でコミュニティサイクル自転車を返すことができるという、そういうふうな考え方のもとで、自転車の先進国のヨーロッパでは、観光だけじゃなしに交通渋滞の緩和などでも取り上げられているところもありますし、日本でも今、すごく注目されていて、大阪市や堺市などでもコミュニティサイクルは導入されております。

ですので、橋本市にとってはそんなに交通渋滞ということもないのかもわかりませんが、一つ、方向性としては観光という意味では、すごく有効的ではないかというふうにも思います。コミュニティサイクルがございましたら、橋本駅から、例えば、高野口行って、学文路行って、また、隅田へ行ってというふうな形で周遊することも可能でありまして、ですので、もっと広く考えれば、橋本を中心にしてかつらぎ町や九度山町と、先ほど、今、おっしゃったように広域にも考えること

ができます。そうなりますと、やはり、県との連携もしていかないといけないということもあります。

ここにも挙げさせていただきましたように、那賀振興局ではもう既に、そういうような形で広域でされております。いろいろとこれに対してご検討いただいたと思いますが、コミュニティサイクルを導入するとなれば、メリット、デメリットあると思いますが、その辺、もしお考えあれば聞かせていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）既に高野口の地場産業振興センターでレンタサイクルを活用して、周遊マップをつくって、特に残念なのは、啓発を積極的に行われていないので、なかなか利用者の促進につながっていないというところが残念なんです。このシェアサイクルをしていくことになれば、橋本市としては、ご指摘のとおり、観光面で地域を回遊してもらうことで、新たな魅力を発見してもらうことが可能になってこようかと思えます。今まであまり知られていなかった飲食店であったり、観光資源であったり、そういったことを市外、県外の方にも確認いただけたと思えます。

それと、都会に限らず、やっぱり橋本駅もそうですし、高野口駅もそうなんですけど、自転車で駅まで来られている方がたくさんおられて、比較的放置自転車もいまだにたくさんあります。そういった通学とかビジネスで利用される方のシェアとして、放置自転車の抑制にもつながっていきますし、もちろん、健康促進とかエコシティーの推進、そういったことにもつながってまいろうかと思えます。

○議長（中本正人君）10番 森下君。

○10番（森下伸吾君）ありがとうございます。

本当にそういった形で前向きにお考えいた

だきまして、橋本市でも自転車で私も回っていますと、やはり気づかなかった観光資源というのも見つかったりとか、自然豊かなところを走っていると、すごく健康的にもいいなというふうにも感じますので、ぜひとも県外からも来ていただきたいというふうなことも思います。

県外からといいますと、4番議員にもきのうお話がありましたように、高野山開創1200年祭では、4月2日から5月21日の約2カ月間で、来場者数60万人が来られたということでありました。そのうち、南海高野山駅におり立った方は、私が調べた中では約13万人の方が、この2カ月間で、あの駅でおりましたということでありまして、前年の2.5倍増という形で言われて書かれておりました。それだけの人が本当に来たんだというふうな形で、私自身もびっくりしておりまして、皆さま方もそういうふうにしたと思うんですが、果たしてこの橋本でおりながら、あれだけの人が来たのかという実感が私もないんですね。

というのは、やはり大阪から高野山まで、どうしても橋本は通過駅になってしまっていたのかなというふうにも考えるわけです。高野山、南海に乗っていらっしゃる方が13万人もおったわけですが、この橋本市でおりていただいて、橋本市を周遊していただくというふうなことができなかったのかなというふうにも思うんですが、何かがあれば、橋本市にそういうふうな魅力がなければ、わざわざ途中下車して周遊していただくこともないんですが、その一つのきっかけといいますか、取り組みとして、今回レンタサイクルなんかもいいんじゃないかと私も考えたわけなんです。そういった1200年祭に対して、市としてもいろいろほかにも考えていらっしゃると思うんですが、その辺もし、こういうふうな取り組みがされたのであれば、何か

教えていただければと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）高野山開創1200年に向けて、橋本市独自の何か取り組みをしたのかというおただしについては、広域の観光協議会、これは高野町も含めた橋本市、かつらぎ町、九度山の中で、積極的な観光客誘致ということを行っていったわけなんですけど、橋本市としてもできるだけ誘客に向けて、いろんなおもてなしの研修であったり、それぞれの店に観光客を招くような、そういった取り組みを積極的に行ったという、そういう実績はございます。

先日、読売新聞に載っておったんですけど、観光競争ランキングで、結構メジャーなスイスの民間研究機関で世界経済フォーラムというのがあるんですけど、ここで日本は総合9位で、観光の非常に競争力があるというふうに位置づけられています。いろんな評価の項目があって、その中で特に日本が優秀であったのが、接客が1位で、従業員の訓練が2位で、いわゆるおもてなしを得意とする日本独特の評価であったと思います。政府も2020年には、外国人観光客インバウンドに対して2,000万人の目標を立てておりますし、そういう中で、高野山もそうやったんですけど、非常にこれから外国人の誘客というのが橋本市にも訪れると思います。

今現在、橋本駅のほうに公共交通機関鉄道を利用したり、観光バスで、実はたくさんの方が、橋本駅でおりられる方が多いです。ただ、そういうお客さんというのは、直接橋本市をターゲットにして来られたのではなくして、高野町であったり吉野であったり、場合によっては京都、そういったところまで足を運ぶ中継点として、トランジットの形で橋本駅へ寄られる方が多いです。そういった方、

それと、ルートインがあるので、ただただ関空へ来て、宿泊のためだけ夜にチェックインされて朝早くから遠出されてしまうと、そういう、いわゆる滞在時間の短いお客さんが非常に多いです。

そういった方に対して、議員おただしのレンタサイクルなんかを利用していただいて、この橋本市の魅力を認識してもらって、観光施設であったり、店舗に誘導する仕組みづくりが大切だと思っております。これから、そういう観光客に向けて、さらに付加的な内容として、例えば、観光客の荷物を預からせていただく、観光案内所で預からせてもらったり、宿泊施設で預からせてもらって、そこから自転車で周遊してくださいねと、そういう取り組みも今後検討していけるんじゃないかと思っています。

○議長（中本正人君）10番 森下君。

○10番（森下伸吾君）ありがとうございます。

すごくこれからまた前向きに取り組んでいただくということで、具体的にというのは、ちょっと私も今わからなかったもので、やはり、私も反省しているところではあるんです。実は、1200年祭に対してもっとアピールしたらよかったんじゃないかなと思いました。

ですので、実はまた、広域でという話も私思ったのは、来年2016年には、大河ドラマ「真田丸」が放映されます。ですので、来年は多分、九度山駅のほうにたくさんの乗客の方がおりて、また、九度山町を周回されると思います。徒歩だけであれば、九度山町だけで終わってしまうところを、九度山町にもしレンタサイクルがあれば、そこで自転車に乗っていただいて、真田庵や慈尊院まで来ていただいたら、もう橋を渡れば高野口町ですから、高野口町へ行っていただいて、そこからまた橋本市へ行っていただくということも可能だと思いますので、そういう意味ではレンタサ

イクルというのは今、橋本市にとっても、すごくいいのではないかなというふうにも思います。

大河ドラマの効果というのも大変大きいものがありまして、昨年、放映されましたNHKの大河ドラマの「軍師官兵衛」に、そこで関係しております大分県の中津市というところは、官兵衛が12年ほど城主を務めた場所がありますけども、その中津城の観光客が、平成26年度13万5,000人で、前年の4倍以上に増えたということもあります。

ですので、橋本市独自で観光客を呼べるというのが一番理想的だとは思いますが、せっかく来年、そういうふうなことがありますので、機会がありますので、それに便乗することもいいのではないかなというふうにも考えます。ですので、そういう意味では、広域という意味でも取り組んでいただきたいんですが、そうすると伊都振興局との連携ということもありまして、その点、すごく振興局との連携が高い理事もいらっしゃいますし、市長も伊都振興局のほうともかかわりがございまして、この辺、上層部の方々のお考えはいかがなのかなちょっとお聞きしたいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）森下議員の質問にお答えします。

来年は「真田丸」ということで開催されるわけですけども、ただ、先ほど言われました九度山町については、果たしてあそこを自転車で走っていいのかという、あの狭いところを自転車で走ることが、かえってけがをさすとか、今、改正自転車法もありますから、その中でそれをどういうふうクリアしていくんかということは、これはもうちょっと非常にハードルが高いかなというふうに思ってい

ます。

ただ、レンタサイクルについては、当然、これから伊都橋本の中でどういうふうにしていくんかというのは、観光という部分では非常に大切な部分であると思います。サイクリングの自転車レースであったり、そういう誘致をしていくとか、観光でヒルクライムやっただかな、そういうようなこともあると思いますし、また、あるいは観光として、これから、JRの隅田駅まで今、サイクリングロードとして県の部分で決定していますから、それをいかに活用していくかというふうなこともこれから考えていく。高野口に置いてあるのは3台ですから、3台で逆にそしたら何ができるのかというふうな問題もあるし、告知もできていませんし、そしたら、どこに置いておいたら誰が回収するんやという、そういう基礎的なことも一度、検討をして、そして、それはどこが運ぶんやというふうな、非常にちょっと短期間では難しいような状況もあります。

現在、三市協のほうからも、先日、総会やったんですけども、五條市の太田市長のほうから、ぜひ五條から奈良のほうまでつないでいきたいと思いますという、また、河内長野市まで行きましようとかいうような広域的な話もありますので、そういう中で、一度、すぐにといいのはなかなか難しい問題なんですけども、広域も含めて橋本市でも、どういう方法があるのかということも含めて、置きっぱなしになったら困りますし、駅に置いて誰かに乗って帰られても困ります。そういうセキュリティ的な問題もあると思いますので、一度、まず、庁内で検討させていただいて、その中で、また広域にも提案をしていくという方向で、伊都振興局とこの事業については、もともと県がサイクリングロードと指定してきている部分がありますので、そういう部分の中で、

しっかり振興局と連携をしながら前へ進めていきたいというふうに思います。

○議長（中本正人君）10番 森下君。

○10番（森下伸吾君）ありがとうございます。

しっかり連携とっていただくということで、ありがとうございます。先日も、伊都振興局長にこのような話をしましたら、ぜひともどんどん振興局のほうに持ってきてくれということでしたので、向こうも積極的に受け入れられているみたいでございますので、こちらの熱意を伝えていかないと、向こうにも伝わらないと思いますので、特に、那賀振興局では、それを先進的にされておりますので、決して向こうもできないことではないというふうにも考えていらっしゃると思いますので、積極的に、この辺、進めていただきますようどうかよろしくをお願いします。

一つ目の質問は終わります。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、介護保険を使っていない方への感謝を形にとの質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（石橋章弘君）登壇〕

○健康福祉部長（石橋章弘君）議員ご質問の、健康で介護保険や医療保険を使わない方の表彰等を行うことは、高齢者の方々の健康に対する意識の高揚を図る一定の効果が期待できると思います。

現状として、本市では、介護を受けることなくいつまでも健やかに過ごしていただけるよう、また、健康への意識づけとして、げんきらり一教室やふれあいサロン事業などの介護制度に組み込まれた介護予防事業を展開しているところです。

表彰などの実施については、現時点、その実施方法や効果の見極めには至っておらず、事業の実施予定はありませんが、今後、先行事例もありますので、その実施方法や効果に

ついて、調査研究したいと考えます。

○議長（中本正人君）10番 森下君、再質問ありますか。

10番 森下君。

○10番（森下伸吾君）ありがとうございます。

介護保険制度、本当にこれは、国、国民全体で支えていくというのが基本であります。しかしながら、お元気な高齢者にとっては、長年介護保険料を払っているのに何も無いのかというのが、すごくどこかで持っていらっしやると思います。健康でおれるというのは、確かにありがたいことではあるんですけども、やはり、何かしっくりこないというのを持っていらっしやる方もいらっしやいまして、そういうお話も聞いたものですから、今回、こういうふうなお話もさせていただきました。

きのうの8番議員の質問にありましたように、7万6,400円ですか、その辺払っていただいて元気でいていただくということは市にとってもありがたいことでありますし、ちなみに、介護保険を在宅で使いますと、例えば、1万円かかった場合、本人負担は約1割という形になりまして、残り9,000円のうち2分の1の4,500円を私たちが払った介護保険料で払うと。残りの2分の1を国が補填して、また、その4分1が県で持って、また、あとの4分の1を市で持つという形になりますので、県にしる市にしる財政は厳しい中、どんどん、これから負担が増えていきますので、大きな課題であるということは間違いないというふうに思います。

先ほどおっしゃっていただいたように、橋本市がげんきらり一とかという形で取り組まれておりますので、元気な高齢の方がたくさんいらっしやいますが、そういう方がどんどんまた増えるように、ぜひとも、この辺りもご検討いただいて、先ほどもありましたように先進地もでございますので、その辺、また

しっかりとご協議いただいて、こういったご高齢の方にも感謝の気持ちをあらわせる市であるというのをアピールしていただければというふうに思いますが、その辺、また前向きにご協議いただけるのかどうか、もう一度、お願いいたします。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）今のご質問の中で、まず、保険料の、平たく言えば、掛け捨てのような考え方をお持ちの方、俗に言えば非常によくわかるような気持ちではありません。

ただ、例えば、本市といたしまして、表彰による、一定の金品に近いようなものを表彰につけていくとなると、まさに保険料の反対給付、減額、平たく言えば、そういうふうなことにとられると、やはり介護保険の基本的理念、社会全体で支えていく、あるいは65歳以上の一般、第1号被保険者の方々の保険料、第2号もありますけども、皆さんで支えていくという基本理念のところでございます。一定の要件になれば、いけば、強制的に加入となり、強制的に保険料も徴収されるとかいうことになってしまうということであれば、一定の要件というか、一部の方にそういうふうな反対的な減額なことに結果的にはなってしまうようにとられることは非常に好ましくない。これは一定のそういう考え方もございます。

となれば、やはり考え方としては、当然、皆さん、いつまでもお元気で介護保険の適用を受けるようなことにならないようにという、健康でいつまでもという考え方、こういう意識づけというのが一番大きな目的になろうかなと思います。一般的に表彰と申しますと、例えば、他の模範となる方であるとか、すぐれた功績であるとかというようなことに対して表彰することによって、皆さんの意識の高

揚を図るというのは一般的な話なのかなということになります。

申し上げたいのは、いわゆるいつまでもみんな元気で長生きしたいというのは、一人ひとり、皆さん、持っている感情だと思います。これに対して、いかに意識づけしていくか、インセンティブを与えるのかというふうな効果に着眼して考えた場合に、確かに、表彰事業というのは非常に効果のあるもの、一定の効果のあるものというふうには認識できますが、本市としては、現時点、この介護保険制度の中で、それに至らない予防事業という位置づけがございます。それが、答弁差し上げたげんきらり一等々の、ふれあいサロン等の事業になってくるのかなというふうに考えます。

実際、表彰事業のやり方、事務的なやり方なり、その効果のほうはまだ見極められていないという現状でございますので、今後、先進地事例等を研究させていただいて、それを見極めた後に実施か、あるいは実施しないか等々を検討していきたいということでご答弁を差し上げております。

○議長（中本正人君）10番 森下君。

○10番（森下伸吾君）ありがとうございます。

すごくお元気で、ご高齢の方もたくさんいらっしゃると思いますので、介護保険、医療保険を使わずに元気でいらっしゃるということ自体が、私はもう表彰に値するんじゃないかなというふうに思います。家族にしても、うちのおじいちゃん、おばあちゃん、元気で、この間、表彰を受けたんよと言えば、それも家族の一つの励みになりますし、ご本人もこれからまだまだ元気でおらなあかんというふうな思いで頑張っていただけじゃないかなというふうに思います。

ですので、金品どうこうという話もありましたが、それはまたご検討いただいて、まず、

そういうふうな形で、まず、何らかの形をあらわしていただくというのの一つではないかなというふうに思いますので、いろんなパターンもあると思います。年齢的なこともあると思います。何歳から表彰したらええのよという話もあると思いますし、毎年やるんかいというようなこともあるかも知れませんが、それはまたご検討いただいて、例えば、90歳以上で毎年5年間ずつやるよとかいうのであれば、そういうなも一つやと思いますし、いろいろだと思えます。それはまたご検討いただいて、ぜひともこれは、健康な高齢者に関して感謝の気持ちをあらわせる市であるというのをアピールできる機会でもあると思いますので、どうかまた、しっかりと検討いただければと思います。

二つ目の質問は終わります。

○議長（中本正人君）次に、質問項目3、高齢者が利用できる施設等の便利帳の作成をとの質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（石橋章弘君）登壇〕

○健康福祉部長（石橋章弘君）高齢者が利用できる施設などをまとめた便利帳の作成のご質問にお答えします。

高齢者の方々がより安心して生活ができるためには、困ったときに、安心して相談ができる窓口として橋本市地域包括支援センターを設置しています。そこでは、相談内容に応じて、各種制度の紹介や申請方法の助言、具体的なサービス利用の調整、また、お住まいの地域にある介護保険事業所や病院、地域活動などの情報などわかりやすく紹介しています。

地域包括支援センターでは、昨年度当初に、みんなで作った相談支援ハンドブックを発行し、相談支援に携わっている関係者にお配りしたところです。これは、介護保険事業所、

病院、民生委員などの関係者が集まって開催した地域ケア会議において意見を集約し、介護、医療、地域などさまざまな情報を盛り込んだものを作成し、高齢者の支援に携わる方々に活用していただいています。各関係者からは、高齢者からの相談や支援調整時に役に立つという評価をいただいているところです。

また、高齢者やご家族などには、相談内容に応じ、介護保険サービス事業所や病院のリスト、いきいき長寿課で取り組んでいるふれあいサロンや、げんきらりー自主運営教室のような地域での活動団体の一覧表などを適宜お渡しして活用していただいているところです。

サービス事業所や地域活動等の情報は、少なくとも毎月更新する必要が生じます。冊子では一部変更での再作成がその都度できませんが、本市では、ニーズに応じた最新情報の提供に心がけていますので、現状では冊子にすることは考えていません。

○議長（中本正人君）10番 森下君、再質問ありますか。

10番 森下君。

○10番（森下伸吾君）ありがとうございます。

部長から、冊子にする予定はないということですが、そういった情報、すごく役立つ、一度、相談員にはつくってあるというふうな形でおっしゃっていただいていたが、それを一般の方にも見られるようにしていただければすごく便利ではないかなというふうに思います。

千葉県の勝浦市では、「勝浦いろは帖」という形で、こういうのを作成していらっしゃいます。この中には、全ての情報、ご高齢者に関して役に立つような情報がたくさん載っておりまして、例えば、行政に関すること、相談窓口はどういうところですかとか、あと、

生活に関すること、医療関係、介護サービス、ボランティア、認知症まで、全てが一つにまとまっておるようでございます。

ですので、例えば、冊子にするというふうになれば、先ほどおっしゃったように、更新が大変になるということもありますので、ここも、勝浦市も、インターネットに公開されていまして、こういうふうな形で、タブレットを持っていけば、すぐにこうやって見ることができますので、こういうふうな形で、インターネット上にPDFなり、公開していただくという形でまとめていただいてという形ではいかがでしょうか。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）実は、このご質問をいただきまして、担当課等で協議しておりまして、その中でも、ホームページ等々でご案内するという案も出ております。これについては、今後取り組んでいきたいと考えております。ただ、ちょっと心配なのは、こういうサービスを利用される方はホームページを見られるかなというところは心配ではございますが、当然、ご家族の方等もいらっしゃると思いますので、ホームページでご案内することは取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（中本正人君）10番 森下君。

○10番（森下伸吾君）ありがとうございます。

確かに、そういうふうな思いがあります。ご高齢の方が果たして、ホームページを見るかなというのがあるとは思いますが、ただ、やはり先ほどおっしゃったように、家族の方が見ることで、すごく、まとまっています。これ、私も見せていただいて、すごくまとま

ったものになっていきますのでよくわかりますし、どこに連絡をすればいいのか、突然、夜にそうなった場合、どうしたらええんかとか、やはり、なかなか時間がない、働いている家族の方にとっては、こういうふうにまとめていただくと、窓口相談に行くとなるとなかなかまた、大変ですけども、まとまったものがあれば、すごくわかりやすいんじゃないかなというふうに思いますので、妊婦さんには母子手帳という形ですごく情報が集まった冊子がありますけども、そういったご高齢の方のそういった資料帳、手帳みたいなものがあればいいなというふうにも考えておるんですが、やはり印刷するとお金もかかりますので、なかなかそういう面でも大変だと思いますが、一つの方法としましては、広告料を集めてそれを冊子にするということも考えられるのではないかなというふうにも考えますが、まずは、スタートとして、ホームページでPDF化して、アップしていただくからスタートしていただいて、さらに、やはり印刷してほしいよというのであれば、そこに進んでいただければというふうに思います。

ですので、まずはホームページにアップすることを考えていただけるということであれば、そこからまずは進めていただければなというふうに思いますので、すごく前向きなご答弁をいただきましたので、まずはきょうは、このあたりにさせていただきますして、次また期待させていただきたいと思っております。

以上で私の一般質問は終わります。

○議長（中本正人君）10番 森下君の一般質問は終わりました。